

あとがき

2006年3月にツイッターの生みの親ジャック・ドーシーが世界初のツイートを投稿してから4年後の2010年4月、ツイッターの登録ユーザー数は、約1億500万人に膨らみました。

米国より遅れて流行し始めた日本ですが、利用者の増加にはめざましいものがあります。ネットレイティングスのNielsen Online Reporterによると、2010年4月のツイッター訪問数は990万人で、その前の月より24%も増加しています。インターネット利用人口に対するリーチ(サイト閲覧者の比率)も16%で、月間訪問者数ではミクシィをついを超えました。

これほど利用者数が増えているツイッターですが、「無意味なおしゃべり」と敬遠する人、誹謗中傷を恐れる人、インターネットに不慣れなので敷居が高いのではないかと懸念する人、など利用をためらっている人も多いのではないのでしょうか。

利用者が増えてしまったから、かえって始めるのがおっくうになった人もいるかもしれません。2009年1月に始めていなければ、私もそのひとりだったと思います。

ツイッターに関する本はすでに多く出版されています。有名人による入門書も沢山あります。

「それなのに、なぜ今ごろツイッター本を出版するのか？」

そんな疑問を抱く方は多いと思います。

それは、本書が他のツイッター入門書とは異なる視点で書かれたものだからです。

私にはバードウォッチングならぬ「ピープルウォッチング」という趣味があります。20代の頃から世界各地を旅してきましたが、どの国に行っても、カフェや道ばたに座って通り過ぎる人々を眺めながら、職業、趣味、性格、人間関係、などあれこれ想